

Starting Point ★

「通じやすい」英語の習得を目指して、発音の基本を効率的に学習しましょう。
紹介する発音ルールは、120人のベテラン英会話講師の意見から作成した
「日本語話者にとって難しい」音や要素のランキングのデータに基づいています。

今月の題目〈復習編〉

リズムとイントネーション

※主に北米の発音を扱います

このコーナーのお役立ちポイント

◎正しい発音の仕組み ◎口を動かす練習 ◎発音ルールを盛り込んだスキット

▶日本の学習者が特に苦手な音の発音法と聞き取りのポイントを学ぶ

▶自分で声に出すことで、聞き取りの精度を高め、オーラルコミュニケーション力を向上させる

学習日

	日付		
基本をチェック!	/	/	/
耳と口で確認!	/	/	/
スキットで練習!	/	/	/

Starting Point



HM Narration

Well, we've had ups and downs, and rhythm and blues in Starting Point recently — ah, well, maybe not the blues — but this month, we embark on a review of all of the musical aspects of English we've been looking at lately. So, listen closely.

さて、このところの「聞き取るための発音入門」には上がり下がりやリズム&ブルースがありました——ああ、いえ、ブルースはなかったかもしれませんが——が、今月は、最近目を向けてきた英語の音楽的側面全ての復習に掛かりますよ。では、よく聞いてください。

基本をチェック！

まずは、今月理解すべきポイントを押さえましょう。

リズム、イントネーションとは

今月は、1月号と2月号で学習した英語の「リズム」と「イントネーション」を復習します。

英語には、日本語とはまったく異なるリズムとイントネーションがあります。これらをマスターすることこそが、「単語レベル」ではな

く「文レベル」での英語の聞き取りにおいて、大変重要です。さらに、こうしたリズムとイントネーションに沿って発話することが、皆さんの英語の聞き取りやすさを向上させるとともに、最終的に「高度なコミュニケーション能力」の習得につながります。

リズムの基本ルール

英語では、ある言葉はしっかりと発音し、他の言葉は軽く発音するという「緩急」のリズムが重要です。英語のリズムは、主に以下のようなルールに従っています。

- ①内容語（文の中で意味を伝える役割を持つ語：名詞、一般動詞、形容詞、副詞、疑問詞、否定詞など）は、強めのストレス（強勢）を1つ、または2つ含みます。その結果、**ストレスの置かれる部分は比較的長く、はっきりと発音されます。**
- ②機能語（重要な意味を持たず、語と語をつなげる役割を果たす語：冠詞、be動詞、助動詞、前置詞、接続詞、代名詞、関係代

名詞など）は、特にその意味を強調したい場合を除き、強いストレスが置かれることはありません。その結果、**語全体が比較的短く、軽く発音されます。**

今月号では、以下のように、強いストレスは強さの大きい順に●、●の記号で表します（それ以外の弱いストレスには記号を付けていません）。

● ● ●
My teacher was writing my name on the
● ●
blackboard.

イントネーションの基本ルール

英語には主に、①下降（↘）、②上昇（↗）、③下降上昇（↘↗）のイントネーションがあり、文法的情報（例：陳述文か疑問文か）と意味的情報（例：文の中で特に何を伝えたいか）の2つを聞き手に伝えます。イントネーションは通常、文や節などの固まりの最後の部分に現れますが、それ以外の箇所にも付くことがあります。通常は下降や上昇をせずに言われる箇所にイントネーションを付けると、文中で特に伝えたいことを明確にしたり、文に特殊な意味を持たせたりすることができます。

①イントネーションが下降する場合

▶陳述文、命令文、感嘆文

I like to study English. (私は英語の勉強が好きだ)

Don't close the window. (窓を閉めないで)

What a clever idea! (なんて賢いアイデアだろう！)

▶Wh-疑問文

Who actually wrote this book?

(誰が実際にこの本を書いたの?)

▶ 付加疑問文で、相手に同意を求める場合

George has already finished his assignment,
hasn't he?

(ジョージはもう課題を終えたんですね)

▶ 文がまだ途中である場合

When I was younger, I didn't like to study
English.

(若いころ、私は英語の勉強が好きではなかった)

②イントネーションが上昇する場合

▶ Yes/No 疑問文、平叙文の形をした疑問文

Do you like to study English?

(英語の勉強が好きですか?)

You're graduating next spring?

(君は来春、卒業するの?)

▶ 付加疑問文で、相手に確認する場合

George has already finished his assignment,
hasn't he?

(ジョージはもう課題を終えたんですね?)

▶ 依頼・勧誘・許可を求める表現

May I borrow your pen?

(ペンを借りてもよろしいですか?)

▶ 状況・物・項目を列挙し、まだ後に続く場合

I've been to Canada, Australia and the U.S.

(私はカナダ、オーストラリア、アメリカに行ったことがある)

③イントネーションが下降上昇する場合

▶ 言外の意味を伝える

Ben is a smart guy.

(ベンは頭の切れる男だ [が、ただそれだけだ])

耳と口で確認!

実際に音を聞き、声に出して、今月のポイントを確認しましょう。



課題 1

Track 3 には、「基本をチェック!」にも出てきた以下の文が1回ずつ収録されています。1文が読まれるごとにあるポーズ(間)で、記号で示されたリズムとイントネーションに注意しながら、まねて言って(リピーティング*)みましょう。

*リピーティングのやり方についての詳細は、『コースガイド』の15ページを参照してください

1. I like to study English.
2. What a clever idea!
3. Who actually wrote this book?
4. George has already finished his assignment, hasn't he?
5. George has already finished his assignment, hasn't he?
6. I've been to Canada, Australia, and the U.S.
7. Ben is a smart guy.

スキットで練習！

仕上げに、スキットを使って今月のポイントを体得しましょう。

Track 4 で、以下のスキットをよく聞きましょう。

記号で示されたリズムとイントネーションに特に注意してください。

その後、Track 5 で、各文の後にあるポーズでリピーティング*をし、最後に、再び Track 4 を聞きながら、今度は音声にやや遅れるようにしてまねて言って(シャドーイング*) みましょう。

*リピーティング、シャドーイングのやり方についての詳細は、「コースガイド」の15ページを参照してください

M
4M
5

課題 2

Tom: How are you, Amy?

Amy: I'm fine. How are you, Tom?

Tom: Wonderful. Hey, you look busy!

Amy: Yes, I am too busy. I have four exams tomorrow.

Tom: What? What an ¹intense schedule! You have four exams? Which ²courses are they?

Amy: ³Sociology, ⁴anthropology, ⁵linguistics and ⁶philosophy.

Tom: Are you serious? I only have one tomorrow — ⁷politics.

Amy: Wow, you're lucky!

トム：調子どう、エイミー？

エイミー：元気よ。あなたはどう、トム？

トム：上々だよ。ねえ、忙しそうだね！

エイミー：ええ、忙しすぎるわ。明日、試験が4つもあるのよ。

トム：えっ？ なんて過密なスケジュールなんだ！ 4つも試験があるの？ どのコースだい？

エイミー：社会学、人類学、言語学、それに哲学よ。

トム：本当に？ 僕は、明日は1つしかないんだ——政治学だよ。

エイミー：わあ、いいわね！

語注

① intense 猛烈な、激しい、集中した / ② course 課程、講座、教科 / ③ sociology 社会学 / ④ anthropology 人類学 / ⑤ linguistics 言語学 / ⑥ philosophy 哲学 / ⑦ politics 政治学

Coach



斉藤一弥(早稲田大学講師)

数年ぶりの日本滞在を満喫した後は、短期出張でアメリカ・ダラスに向かいます。久しぶりの北米での学会発表がとても楽しみです